

**北海道農業研究センターから譲渡された土壌試料**

Soil Samples Transferred from National Agricultural Research Center for Hokkaido Region

神山和則<sup>\*</sup>，大倉利明<sup>\*</sup>

Kazunori Kohyama and Toshiaki Ohkura

**1. はじめに**

北海道農業試験場（現 北海道農業研究センター）では5万分の1縮尺の北海道の農牧地及び農牧適地の土壌調査を昭和21年から48年にかけて実施した。調査時に採取した土壌サンプルは一般理化学分析に供した他、テーマ別の解析に用いるため保管されてきた。しかし、平成18年度からの中期計画による組織改編により研究室体制ではなくなったこともあり、これらの土壌サンプルを継続的な保管が難しい状況となってきた。以上のことから農業環境インベントリーセンターでは（1）採取地点が特定でき、（2）断面記載、分析値がある土壌サンプルを譲り受けることとした。

**2. 北海道農試の土壌調査**

地力保全基本調査による土壌調査が農地に限定されていたことに対し、北海道農試の土壌調査では、調査範囲が農牧適地に及んでいることが特徴である。すなわち、調査時点では非耕地であっても比較的地形条件の良い場所（概ね、傾斜15度未満、標高400～500m以下）あるいは過去に入植履歴のある場所を含んでいる。このため土壌調査結果は、北海道の農地開発調査に利用されてきた。

これらの調査結果は市町村別報告書としてまとめられたが、関係市町村に配布されただけであった。いくつかの市町村をまとめ支庁別あるいはさらに細分した地域別に編集したものが北海道農業試験場土性(壤)調査報告(全32編)として刊行されている。また、その集大成として60万分の1北海道土壌図が昭和60年に刊行された。なお、土壌調査報告書については北海道農業研究センターホームページ(<http://cryo.naro.affrc.go.jp/>)の「公開データベース等」から見ることができる。

**3. 土壌サンプルの概要**

本年度に譲渡された土壌サンプルは石狩支庁をはじめとする8支庁の約1300地点の約4000サンプルである(図1)。胆振支庁、渡島支庁、留萌支庁についてはサンプルは保存されていたが、採取地点を特定できる資料がなかった。また、十勝支庁、根室支庁についてはサンプルが保存されていなかった。空知支庁のサンプルは採取地点との照合が終了していないため次年度に照合の上譲渡を受ける予定である。

主要な土壌型別のサンプル割合は未熟土6%、火山性土17%、褐色森林土18%、疑似グライ土7%、低地土48%、泥炭土4%であった(表1)。

---

<sup>\*</sup>農業環境インベントリーセンター

Natural Resources Inventory Center

インベントリー，第6号，p19-21（2007）

表1 土壌型別地点数

大分類	土壌型* 中分類	地点数	
未熟土	小計	76	(6.1)
	残積未熟土	8	
	砂丘未熟土	16	
	火山放出物未熟土	39	
	湿性火山放出物未熟土	13	
火山性土	小計	214	(16.9)
	未熟火山性土	26	
	湿性未熟火山性土	10	
	褐色火山性土	45	
	黒色火山性土	65	
	湿性黒色火山性土	9	
	厚層黒色火山性土	43	
褐色森林土	小計	221	(17.7)
	褐色森林土	30	
	酸性褐色森林土	191	
疑似グライ土	小計	82	(6.6)
	疑似グライ土	79	
	グライ台地土	3	
ポドゾル	ポドゾル	1	(0.0)
赤黄色土	暗赤色土 (貧塩基)	5	(0.4)
低地土	小計	602	(48.1)
	褐色低地土	359	
	灰色低地土	186	
	グライ低地土	57	
泥炭土	小計	50	(4.0)
	低位泥炭土	33	
	中間泥炭土	12	
	高位泥炭土	5	
合計		1251	(100.0)

\* 北海道土壌分類第2次案の大分類と中分類  
 () 内の数値は%

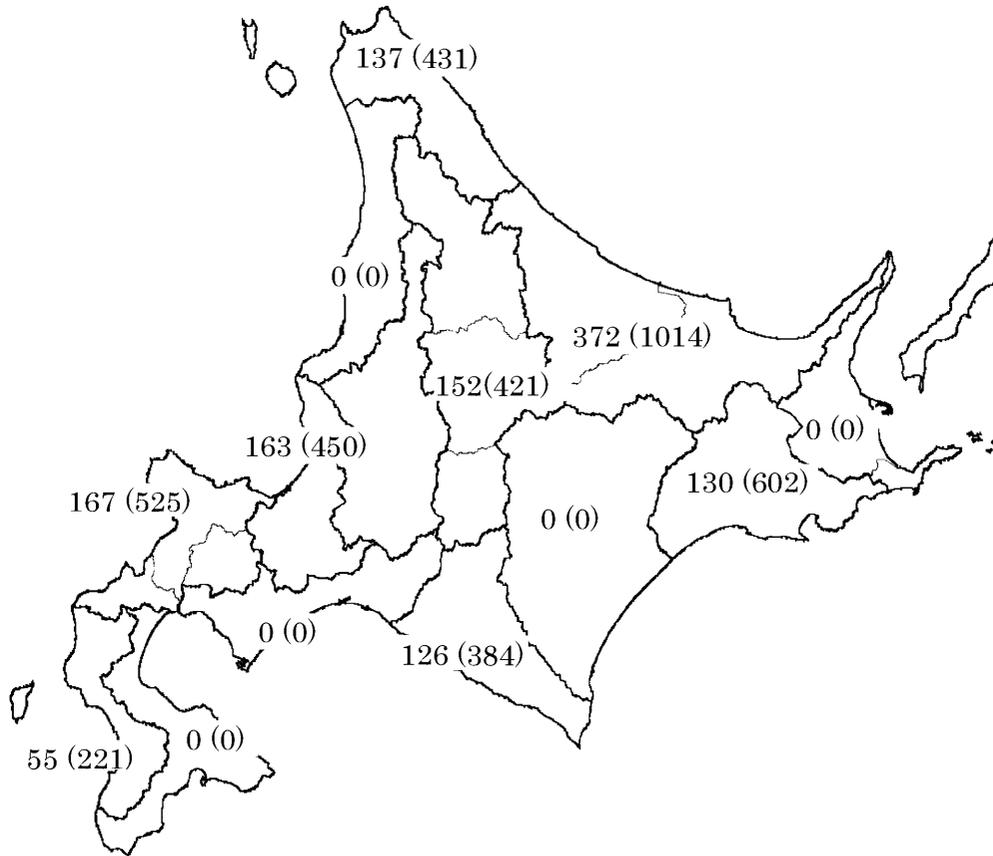


図1 支庁別地点数

( ) はサンプル数

#### 4. おわりに

今期中期計画では農地土壌と林野土壌を含めた包括的土壌分類試案を公開することを計画している。先に述べたように、北海道農試の土壌調査は非農地の調査データを含んでいることから農地土壌と林野土壌のすりあわせに役に立つと考えられる。調査地点については既に pH やリン酸吸収係数などの基本的な分析データがあるので、譲渡を受けたサンプルを利用して、今後、新しい分類試案に適用するために必要ないくつかの化学分析データを加えることによりそれぞれの土壌の分類試案における位置づけを明確にすることが可能になると考えられる。さらに、こうした多くの地点の断面、分析データを用いることでより良い分類試案の提示に役立つことが期待できる。

#### 引用文献

北海道農業試験場 (1985) 北海道の土壌, p1-95, 北海道農業試験場。

#### 問い合わせ先

農業環境インベントリーセンター 神山和則・大倉利明

電話：029-838-8227, E-mail：kohyama@affrc.go.jp, tohkura@niaes.affrc.go.jp